

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076200486		
法人名	地域福祉研究所 有限会社		
事業所名	グループホーム ほなみ	ユニット名	水仙
所在地	福岡県飯塚市枝国430-2		
自己評価作成日	平成26年 12月14日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成27年 2月11日	評価結果確定日	平成27年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

起床から就寝までの一日の生活リズムがしっかりしており、生活習慣を崩すことなく健康が保たれている。また、地域活動に積極的に参加することにより、事業所が地域一員となるだけでなく、入居者自身も地域住民の一員として意識が高まっている。一日二回の散歩を行っておりいい気分転換になっている。また、この散歩が入居者にとっていい運動兼リハビリとなり歩けない状態から歩けるようになった入居者も多く元気で暮らしていく一つの要因となっている。年間行事も多く事業所全体で取り組む運動会や秋祭り、クリスマス会など一つ一つの力を入れており、職員と入居者が一丸となり、毎年より良い物を作りあげている。整理整頓清潔を職員が常日頃から心がけており、入居者にとって住みやすく清潔な環境を維持している。理念に基づいた環境づくりを常に心がけ頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った住宅地の中にあり、大型ショッピングモールにも程近く、利便性の高さで静かな生活環境を併せ持っている。自治会や老人会の日帰り旅行、健康相談会、リサイクル活動等に参加し、入居者自身が地域住民として交流や活動が行えるよう取り組んでいる。また、日常的な外出の機会として、一日2回の散歩を日課としており、これらの活動を通して、地域と事業所の相互の認識や理解も深まり、地域密着型事業所としての本質的な活動が行われている。独自に工夫されたハザードマップには、近隣で予測される災害リスクや入居者の方々が実際に移動できる避難経路、地域の協力者等が示されており、様々な災害を想定した対策にも取り組んでいる。職員の主体的な意識の成長を促し、事業所全体の活性化をサービスの向上に結びつけながら、個別のより良い暮らしの継続に向けて熱心に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根差して安心安全な生活 元気で楽しい生活 家族と同様」という地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を管理者と職員全員、入居者とで毎朝唱和することにより実現に向けて取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての理念は、毎朝唱和を行い、意識付けや確認を行っている。また、入職時に勉強会を行い、共有を図りながら、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、定期的に行っているリサイクル活動やゴミ拾い、健康相談会や敬老会への参加、老人会、町内会の日帰り旅行への参加等孤立することなく地域の一員として地域の方との交流に深めている。	地域の一員として自治会に加入しており、公民館での行事や地域活動に積極的に参加している。婦人部の日帰り旅行に入居者の方も参加され、地域の方の理解と交流がより深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で行われている、作品展や秋祭り等に来園して頂き交流を深めている。また入居の相談や在宅での認知症の家族と同居されている方の相談などがあれば話を聞き今後の事について相談なども受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月位に一回の運営推進会議では、地域との交流・連携や事業所の理解を育む場として会議を有効活用している。又、家族、枝国三区地域住民 市職員等の方にも参加していただき有意義な話し合いを行っている。	2ヶ月に1回の運営推進会議には、入居者、家族、地域住民、市職員等の方々の出席を得ている。家族の参加も多く、取り組み状況の報告や意見交換など活発に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の困難な事例への対応について、地域包括センター、介護保険課と協同している。又、解らないこと等あれば介護保険課に問い合わせるなどの協力関係を築いている。毎月一回の介護相談員を受け入れも行っている。	地域密着型連絡協議会への参加を通じて、困難な事例についての対応などの話し合いを行い、情報共有を図っている。また、月に一度、介護相談員の受け入れを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修で勉強会を行ったり、身体拘束の研修に行き申し送りや、勉強会を行ったりしている。又事業所内で対応方法を検討し身体拘束の防止に努めている。	マニュアルも完備されており、職員全体での勉強会を行っている。事例をもとに研修を行うことで、具体的に職員が理解、意識できるように努めている。また不明な点は保険者やインターネットなどを活用して問い合わせをしている。日中の玄関の施錠はされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については毎年、全体研修を行ったり、虐待に関する研修に行き申し送りや、勉強会を行っている。又、事業所内での虐待の見直し、職員の指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を利用されている方もおり、権利擁護の研修に参加している。全体研修でも取り上げて職員全員の意識を高めている。	外部の研修に職員が参加し、伝達研修という形で職員全体で意識して取り組んでいる。家族閲覧用資料等は完備されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際には、事業所の理念を正確伝え理解して頂けるように努めている。利用者や家族が何か疑問点がある際には、十分な話し合いを行い納得して頂いたうえで契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に三回家族会を開催し意見交換を行うと共に利用者や家族の要望、相談などを受ける。時間が取れないご家族には個別に相談、説明を行っている。利用者だけでなくご家族とのコミュニケーションも大切にしている。	年に3回、運営推進会議の後に家族会を行っている。具体的な事例を挙げながら、意見や要望を収集し、運営への反映に努めている。参加が難しいご家族とも、家族通信や電話などで状況の変化などを細やかに伝え、情報共有とコミュニケーションが図れるように関係を大切にしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回行っているミーティングでは、代表者と職員が参加し様々な意見交換や伝達を行い施設の運営の中で反映させている。	福祉センター等、職場を離れて別の場所で法人内の合同ミーティングを行っている。全体ミーティングの後に事業所別のミーティングを行い、運営に関することと職場に関することの意見が出しやすいように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個人面接を行い要望や働きやすい環境づくりを行っている。又、職員研修もリーダー研修や実践者研修等のスキルアップを目標としている。国の処遇改善加算なども積極的に還元させている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたって年齢や性別などによる排除は行っていない。本人の働く意思を尊重し採用を検討している。	職員の採用にあたり、年齢や性別等を理由に採用対象からの排除は行われていない。実際に20代から60代まで幅広い年齢層の職員が勤務している。産休を利用して産後も状況に合わせて勤務できるように配慮し、働きやすい職場環境作りに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員が研修に行けるように勤務日程を調整したり、全体研修などでも勉強を行っている。又、具体的な事例をもとに話し合いを行う等意識を高めている。	外部での研修会に職員が順番に参加し、内部での伝達を行っている。管理者自らも、様々なハラスメントについての研修に参加して、職員に伝達研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	職員の経験や能力に応じた研修を予定し、様々な内容の研修にしている。又、内部での全体研修及び認知症ケアに関する勉強会も行いスキルアップを目指している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームとの連携を密にとり情報交換を行っている。市内のグループホームや小規模多機能施設等の施設との交流もあり、情報交換や相談も行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	理念にも掲げている家族と同様という関係性のなかで入居者一人一人に寄り添い耳を傾け、その方との信頼を築くよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者だけでなく家族にも納得し安心していただけるよう不安や要望に耳を傾け、その方との信頼を築くよう努めている。状態の報告を、来園時または電話で行い状態を伝えている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が事業所指針の内容についてしっかりと納得、理解して頂けるよう何度も見学に来て頂いたり話し合いの場を設けられるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人一人に様々な役割を担ってもらいながら、また職員と一緒にカレンダー作りや洗濯物干し等の作業を行う事によって力を発揮する場面が作れるように支援し達成感や充実感を持って過ごして頂けるよう心がけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行している事業所便り[ほなみ通信]にはその日の行事や、入居者が日々の生活をどのように過ごされているかを職員が記載されており、家族に入居者の状態の把握が行えるよう努めている。又、一ヶ月のバイタル、入浴、食事の摂取量等を記載した用紙も交付している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に訪問された際には、居室やホールにてお話が出来るよう環境を作っている。家族との外出(外食 買い物 お墓参り等)を行う支援、声かけを行っている。又、実際に支援を行う事により外出をされているケースもある。	家族との交流を大切に、近くのスーパーへの買い物などへの提案や声掛けを行っている。ご本人の希望や意向があれば、以前住んでいた場所へ出掛けたり、墓参りなどの支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールに共有スペースがあり、椅子やソファを置き入居者同士が語り合う場を設けている。又、集団でレクリエーション(カラオケ トランプ等)を行い話す機会を設けられるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後でもご家族が訪問されたり相談の電話を頂いたりすることがあり、経過のフォローを行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者がどのように暮らしたいかを把握するために職員全員が入居者と会話し、日々の気づきから入居者の思いや意向聞き入れていく。会話が困難な場合は、できるだけ本人の本位に近づけるよう努力している。	一人一人の思いや意向に沿えるように、日常の会話を大切にしている。「ひもときシート」を活用し、情報の整理やより深い理解に結びつけながら、本人本位の課題解決に努めている。必要があれば主治医等への相談をしながら実現に向けて検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の自己決定を尊重し、本人の希望に沿った支援に取り組むように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の暮らしのリズムや、身体状況把握できるように毎月一回行っているミーティングだけでなく、日々の業務で職員と情報交換を行ったり、業務日誌やカルテ等で情報を共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ひもときシートを活用したケア会議にて入居者の方がよりよく暮らせるように課題を検討し、職員一人一人の意見やアイデアを取り入れ介護計画を作成している。	ひもときシートを活用しながら、個別のより良い暮らしの実現に向けた情報を整理し、介護計画への反映に努めている。	生活歴や既往歴、楽しみごと等、これまでの暮らしに関する情報を集約し、ひもときシートの活用を活かしながら、更に個別性ある計画作成に結びつけていくことが期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の個別のカルテがあり、日々の生活について記録している。職員間での情報共有の一としても活用している。又、何か状態の変化があれば記載しその日の職員以外にも伝達できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人のグループホームとの連携により、合同行事(運動会 秋祭り等)を行い地域、家族との交流を深める場を作ったりと、多機能化に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の活動、防災センターでの防災訓練、地域の警察、消防の方との連携をとりAEDの研修等を行ってもらっている。又、地域住民の方とよりサイクル活動などに参加し交流を深めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一、二週間に一回、又は三週間に一回往診に來られ診察、内服の処方を行っている。又、具合の悪い入居者に対しては往診に來てくれるなど対応してくれている。	かかりつけ医については、入居の際に確認し、本人や家族の意向を尊重している。これまでのかかりつけ医による訪問診療が実施された経緯もあるが、通院に関して家族での協力が難しい方には職員が対応している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常勤勤務、訪問看護を一週間に一回受け、主治医と連携し情報の交換をしたり必要時、往診や受診を行っている。又、看護師だけでなく職員に医師とのやりとりを報告し共有している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関者との連携を密にとり早期退院への働きかけを行っている。又、退院後の生活を送られるように、主治医と連携している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と十分に話し合い、入居者や家族の意向に沿えるようなターミナルケアを努めている。看取り介護を行っている為、家族の方には入居時に説明をしたり、必要時に何度も重度化についてや、看取りについての説明をしたり、書類を作成したり対応している。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に指針をもとに説明を行い、同意を得ている。また、状況の変化に伴い、その都度の意向確認や医師からの説明が行われ、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、全体研修や申し送り等で看護師、管理者から助言や講習を受けている。又、各職員が急変、事故発生時の対応の研修なども受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回日勤 夜間状態を想定し防火訓練を行っており地域住民、自治会、消防署、民生委員との連携を図っている。又、半年に一回避難訓練を行っている。	年2回、消防署や地域住民の協力を仰ぎながら、避難訓練を実施している。玄関には、ハザードマップを掲示し、予測される災害や避難経路、地域の協力者等を明確にしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体研修で勉強会を行ったり、プライバシーについての外部研修にいたりしている。又、個人の記録や情報について十分に配慮している。	人格を尊重して声掛けや何気ない言葉も配慮されている。個人の情報やプライバシーに関しても個別に配慮されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や状況に合わせて散歩や外出を行っている。個人の買い物の希望があれば、その時々に合わせて行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の生活リズムや生活状況を把握し、その日の希望や体調、状況に応じた対応を行えるように努める。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔が保てられるように、起床、就寝、食後の口腔ケア、洗顔などを行っている。又、入浴も二日に一回は入る環境を作り清潔に保つようになっている。入浴時の着替えなどはご自分で選んで頂きオシャレが出来るように努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が日頃使用していた馴染みのある箸や茶碗、湯呑みをグループホームでも使用して頂いている。テーブル拭きや茶碗洗い等できる事は入居者と一緒に行っている。	栄養士が献立を作成し、調理担当職員が調理を行い、個別の嗜好や状況に配慮されている。食材に関しては、近所の畑で採れた食材を使うこともあり、おやつ作りや外食など工夫しながら支援をされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や栄養バランスの調整は本人の意思、主治医、栄養士、看護師の下コントロールし食事の提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、介助が必要な方は職員がケアを施行。口腔内の食べ残しの除去だけでなく、舌下汚れの除去も行い対応。又、必要時さくら歯科が一週間に一回の往診に来て頂き診察を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に自立に向け二時間に一回のトイレ誘導を行っている。行う事により排泄の失敗の減少、トイレで排泄するという習慣がつくようになってきている。	排泄チェック表を用いている。定期的なトイレ誘導により、排泄の自立につながるよう努めている。	個別の排泄パターンやサイン等を、カンファレンスにて検討、共有することで、更に個性ある排泄の自立に向けた支援へと結び付けていくことが期待されます。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者一人一人の排泄パターンを把握し、主治医の判断の下その人に合った排泄コントロールを行っている。又、施設では排泄を促すための運動やマッサージを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回の入浴日で本人の状態や意思を尊重し入浴を行っている。	週に3回の基本的な入浴スケジュールは設定しているが、その日の希望や体調、状況等に応じて、柔軟な対応に努めている。心地良さやリスクに配慮し、脱衣所や浴室の温度調整にも配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人の睡眠状態を把握し、主治医の判断の下内服の服用を行っている。施設では、日中なるべく起きていたけるようにレクリエーションを行ったり、会話をしたりと対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人が服用している内服に関して理解し効能や副作用に対する対応が取れるように支援している。又、看護師や管理者が主治医に対し症状を説明し内服や処置の対応を検討している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや食器洗い等職員と共に行える事は一緒にやって頂き、役割楽しみを持って日々の生活を過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出をすることが好きな方が多く、一週間に一回は散歩以外に外に出る機会を作っている。出来ない時には室内で気分転換位なるようレクリエーションに力を入れている。	日常的な外出として、ほぼ毎日散歩に出かけている。散歩以外にも、個別に近所のスーパーに職員とともに買い物に出掛ける等、積極的な外出支援は、当事業所の大きな特徴である。利用者の状況に合わせて、家族に提案や声掛けを行うこともある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じてショッピングを行い、金額の上限はあるが入居者に欲しい物を選んでもらい購入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との交流を大切に、定期的な面会を行ってもらったり、来られない方には電話をかけさせてもらい面会の声かけ、状態の報告を行っている。手紙の支援ではなく、日記を書ける方には書いてもらい面会時に見て頂いたりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間を入居者が自由に移動ができ、高い天井は開放的な空間となっている。又、掃除や換気を毎日行なって清潔に保っている。	椅子やソファ等、その時々に応じたくつろぎの場所がある。利用者の個人の作品や共同作成した作品、行事参加時の写真などが飾ってあり、温かみのある空間作りがされている。天井も高く開放感がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に置かれている椅子やソファは自由に過ごす事が出来る共有スペースとなっていて、気の合った入居者同士が話す事が出来るように工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にある筆筒、布団、個人の持ち物は使い慣れた物を持ってきて頂き、少しでも居心地がいい空間づくりを工夫している。	自宅より、馴染みの家具が持ち込まれており、シンプルであるが一人一人写真を飾ったりして居心地よく過ごせる工夫がされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者に分かりやすいようトイレ、洗面所、浴室、居室等の場所がホール内から見渡せられるように作られている。		